

**令和5年度第3回
能勢町障害者計画等推進委員会 議事録**

日 時	令和5年12月20日(水) 午後2時00分~3時30分		
場 所	能勢町役場 西館3階会議室		
出席者	(委員長)	大阪公立大学	教授 野村恭代
	(副委員長)	能勢町民生委員児童委員協議会	副会長 松村茂樹
	(委員)	能勢町障害者福祉会	会長 八木キヨミ
		能勢町手をつなぐ親の会	監事 塩田垣美
		能勢町身体障がい児(者)父母の会	会長 森内由美子
		てしま会能勢分会	会長 城阪敏明
	(福)産経新聞厚生文化事業団	福祉相談くすのき	管理者 高橋基樹
	(福)てしま福祉会	精神障害者地域活動支援センター咲笑	相談支援専門員 深田陽子
	(福)北摂福祉会	ともがき	施設長 高田聡文
	(福)宝島福祉会		管理者 中 幸男
	(福)産経新聞厚生文化事業団	大里荘	管理者 永棟真子
	(福)四幸舎和会	くりのみ園	施設長 大崎年史
	(福)能勢町社会福祉協議会		事務局長 松下和之
	(事務局)	能勢町福祉部福祉課	部長 寺内啓二
			課長 和田政弘
			係長 小豆島弘光
			主事 森鼻正樹
欠席者	6名		
傍聴者	0名		

【次第】

1. 開会

・あいさつ

2. 議題

(1) 第7期能勢町障がい福祉計画(案)・第3期能勢町障がい児福祉計画(案)について

(2) その他

【事前配布資料】

資料1 第7期能勢町障がい福祉計画・第3期能勢町障がい児福祉計画(素案概要版)

資料2 第7期能勢町障がい福祉計画・第3期能勢町障がい児福祉計画(素案)

参考資料 能勢町障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の見直しのためのアンケート報告書

別 添 前回(令和5年度第2回)議事録

【議事要旨】

<p>事務局 (和田)</p>	<p>定刻になりましたので、令和5年度第3回能勢町障害者計画等推進委員会を開催いたします。能勢町福祉部福祉課の和田でございます。本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>本日は第3回の障害者計画等推進委員会となります。計画案についてのご報告となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日都合により、能勢町国民健康保険診療所の宇佐美委員、夢来人の家副施設長の宮武委員、地域支援センター第2わとと管理者の清水委員は欠席ということで聞いております。</p> <p>てしま会能勢分会の城阪委員、地域活動支援センター咲笑の深田委員については、遅れてのご参加ということになるかと思いますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、オブザーバーとして参加予定でありました、大阪府池田子ども家庭センター、大阪府池田保健所、能勢町教育委員会の皆様につきましては、ご欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>したがいまして、能勢町障害者計画等推進委員会設置要綱第6条第2項の規定により、出席者が半数に達しておりますので、本委員会は成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、議題に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。 (事前送付の資料について確認。)</p> <p>お忘れになられた方、あるいは何か欠けている等はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、野村委員長にお任せいたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>野村委員長</p>	<p>皆さんこんにちは。大阪公立大学の野村です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>2022年に国連から障害者権利条約の件で勧告があったということで、その中身を見てみますと、例えば、障がいをお持ちの方への福祉的就労やグループホームも含めた「障がいのある方だけで生活をするという場を提供するということが自体が問題なんだ」という指摘がなされていました。</p> <p>それに対して国としては、指摘に対する回答でなく、ずれた回答をしているということで、指摘を受けたからといって直接、具体的に何かが大きく変わるということは、恐らく当面の間はないだろうと思うが、指摘の中の一つに、何らかの</p>

	<p>発達上の課題がある子どもへの教育の提供が不十分ではないかという指摘に対しては、少しずつ変化が日本でも見られています。具体的に言うと、これまで保育と発達支援は別々に提供しなければならないという方針だったが、障害者権利条約の勧告を受けて、去年の11月30日だと思うが、厚労省も方針の転換を示しています。保育も発達支援も一緒にいいんだという形になりました。</p> <p>このことを受けて早速、社会福祉法人などがゾーン保育というあり方を提供しています。何かと言うと発達支援と保育所等を分けずに、同じフロアで一緒に支援と何らかの教育的な要素を含めた子どもへの関わりをするということから始めています。当初は、法人内で様々なコンフリクトもあったそうです。保育士と発達支援を行う専門職との間でのコンフリクトです。ただ、それも乗り越えて今現在では、両者が協働をしながら、保育士であってもゾーンを担当しますので、自分が担当するゾーンに発達支援が必要な子どもがいれば、その子にもきちんと保育を提供するという形になってきているようです。</p> <p>大阪では、まだそこまで事例として見られていないが、神戸などには、関東方面の法人がゾーン保育を提供するような施設ができたりなどの変化が見られています。一つずつをきっかけにしながら、いつかは日本の障がい者福祉のあり方も他国同様に権利を重視し、本人の生きたい生き方を支援するという形に変わってくると思います。現場の福祉の中で何ができるか、制度の中で何ができるかということも考えていかなければいけないというのが現状ですので、これまでの委員の皆様からいただいたご意見、そして調査結果を踏まえた、次期障がい福祉計画と障がい児福祉計画の素案について、本日は議題として皆様から建設的なご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>それでは本日、午後3時30分までには終了したいと思っていますので、お力添えのほど、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>議題（1）第7期能勢町障がい福祉計画(案)・第3期能勢町障がい児福祉計画(案)について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (森鼻)</p>	<p>それでは資料について説明をさせていただきます。</p> <p>(はじめに、参考資料について説明を行い、続いて資料1の第7期能勢町障がい福祉計画・第3期能勢町障がい児福祉計画(素案概要版)を基に、適宜、資料2の第7期能勢町障がい福祉計画・第3期能勢町障がい児福祉計画(素案)で確認をしていく形で内容について説明。)</p>

野村委員長	<p>ただいま事務局から説明いただきました。</p> <p>皆様、ご意見やご質問等ございましたら、お願いできればと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>では、計画の中身の実情を教えてくださいたいのですが、概要版の5ページ目の一番右の列の「2）精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」の「②精神病床における1年以上長期入院患者数について」の長期入院患者数の目標値が10人ということで設定されていますが、現在は何人おられるのか教えてくださいたいと思います。</p>
事務局 (森鼻)	<p>現在は11人でございます。</p> <p>概要版の2ページ目の右下。現行の成果目標の「②精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」の部分について、令和5年6月末までの目標値が14人となっています。令和3年度、令和4年度、令和5年度と15人と記しておりますが、正しくは11人となりますので訂正をさせていただきます。</p>
深田委員	<p>目標達成値の14人も訂正でしょうか。</p>
事務局 (森鼻)	<p>14人は現行計画の目標値となりますのでそのままです。合わせて、素案の43ページ目の「②精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」の部分についても同じ内容の記載となりますので、11人に訂正をお願いいたします。</p>
野村委員長	<p>ご質問等ありましたらお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (和田)	<p>マイクを回させていただきます。本日はマイクをそれぞれ左右に置かせていただいておりますので、もしよろしければ、それぞれ回していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
城阪委員	<p>この書き方そのものというか、従来と同じような形式、計画、様式というか。何が言いたいかということ、具体的にどのように減らすのかということ。日本は特に、外国に比べると長期入院の方が多いと世界的に指摘されているというようなことを聞いたことがあります。場合によっては、人権侵害だという話まで出ているということです。確かに国の求める数字を減らすのは、いいとは思いますが能勢町として、できることとできないことは当然あると思います。その数字に向かって具体的にどのように町としてやっていくのか、その辺が私はよくわかりません。</p>
事務局 (小豆島)	<p>今ご質問いただきました精神入院の方の人数をどのように減らしていくのかということですが、こちらは精神入院の方のサポートということで、池田保健所を中心に能勢町と連携しながら取り組んでいるという現状でございます。</p>

	<p>例えば、能勢町で計画に関わっていただいている方としましては、基幹相談支援センターや相談支援事業所の方々に関わっていただいているケースです。定期的な面談等を通じまして、まず地域での受け入れ先、例えばグループホームや施設は地域移行になると思われまじ、グループホーム等の受け入れ先等のマッチングなど、タイミングを見ながら取り組んでいただいているケースもあつたりします。</p> <p>今現状、長期入院のことに関しましては、主に保健所で対応をされており、能勢町の数値は現状 11 人ということで、今後目標に向けて取り組み、大阪府と数値の共有をしているということになります。今後も保健所とは連携し、町の方でできる限りの支援を行っていくということになります。</p>
城阪委員	<p>それはそれでいいと思います。町としてやるということが何なのかということ、打ち合わせしましたと、それはそれでいいのですが、「こういうことをやりました」とか、打ち合わせや「このような会議を何回やりました」など、そのような目標の方がいいのではないかと個人的に思います。ここに数字を挙げても、「目標が達成していない」と言われても、「私は何をすればいいのか」という話で、自分のせいではないのに、あたかも自分のせいになってしまうように感じるので、「このような会議を何回開く」などの目標の方が、私はいいのではないかと思います。</p>
事務局 (和田)	<p>もちろんそれも必要なことで、この結果に盛り込んだ内容で、具体的にどのようなことを行っていくかということが大事だと思います。実際に、精神障がいとの関係では、池田保健所が対応している部分が大きいということにはなりますが、町としてもそれは切り離せない話となりますので、どのような周知や改善ができるのかなどを考えていかないといけないと思います。ありがとうございます。</p>
深田委員	<p>相談事業所や基幹相談事業所のことを住民が知らないということで、今までどのような形で知らせてきたのかということと、これからどうしていくかということを具体的に考えています。「します」となっているが、検討するという形なので、今までやってきて「これが足りなかったんで、これからこうします」という具体的なことが何かありますでしょうか。</p> <p>事業所としては一生懸命やっているつもりですが、住民からすれば、ほんの一部の方はご存じだとしても、事業所ごとに何をしているのか全然わからないということで、この場で話すことではないかもしれないが、忘れてはいけない事業ということで大事だと思います。</p>

<p>事務局 (小豆島)</p>	<p>今現状、アンケートの結果などで周知があまりできていない、ご存知ない方が大半だったという結果でした。今回のアンケートで町の広報誌といった媒体から書籍や活字の方で町の広報紙等から情報を得ているという方が非常に多かったという結果も出ています。今回、町の相談窓口の基幹相談支援センターやその他の相談の窓口についても、広報誌を充実させていく必要があるのではないかということが考えられます。</p> <p>今後の周知につきましても、ホームページ等を上手く活用しながら取り組んでいきたいと思っておりますし、また来庁の方にお配りするパンフレットも改善を加えていく必要があるのではと考えております。</p> <p>今までは窓口来庁の方に、相談があるということで来られた方に対しては、「このような相談先がありますよ」というようなチラシやリーフレットをお配りしていたが、広報誌にも改めて載せていなかったということもありますので、より周知を図っていくべきだと思っております。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>委員のお尋ねに能勢町としてお答えいただいたのですが、私のところの基幹相談支援センターの頑張りに尽きるかなと思っております。</p> <p>認知度がというのは、障がいの手帳をお持ちの方に認知度を伺ってもらったということで、もっと考えていかないといけないという前提ではありますが、やはり今現状、基幹相談センターの関わりというのが、障がい福祉サービスを利用される段階で、町の方からこちらにつなげていただいているというところです。利用者の数は年を追って、実績は伸びているかと思っておりますが、手帳を持っている方に広くその存在を知っていただけているかと問われると、まだまだだと思っております。この結果を、前回の委員会の時にも深く受けとめています。</p> <p>ただし、手帳を持っている方の全戸家庭訪問のようなことは、現実味がないので、事務局がおっしゃられた町としてはホームページなどに情報を載せていただき、基幹相談を受託しているこちらでできることはというと、例えば手帳の更新などで窓口に来所された方、今福祉サービスを使っておられる方、またこれから使おうとされる方、現状まだ使わない方、様々な方がいらっしゃるかと思っておりますが、その時に基幹相談支援センターのチラシを様々な利用の目的で、行政の窓口に来られる方に一緒に添えていただく。何かあったときに、今時点では必要ないかもしれないが、今後必要になった時には、ここに連絡してほしいというのを、行政だけが頑張るのではなくて、一緒にさせていただきたいと思っております。</p>
<p>野村委員長</p>	<p>ありがとうございました。大阪市内で言いますと基幹相談支援センターはどち</p>

	<p>らかというと、直接困っている人が相談に行くよりも、いわゆる困難なケースに対して丁寧に支援をするというイメージが強いので、恐らく大阪市内で同じ調査をしたとしても同じぐらいだと思います。低いのは低いですが、そこまですば抜けて能勢町が低いということではないと思います。</p>
事務局 (和田)	<p>補足としまして、参考資料のアンケート報告書の38ページの間17「基幹相談支援センターを知っていますか」が載っております。前回調査に比べて若干減っているというところにはなりますが、その下の間18で見ますと、「基幹相談支援センターで相談したことがありますか」ということに関しては、前回調査に比べ、「ある」と答えている方が、3.1ポイント増加しているということで、認知度というのはこれからまた改めてPRをしていかないといけないと思うのですが、着実に利用していただいている方は増えているというのが見えると思います。</p> <p>あとは、更にここから相談したことがある方を増やしていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
野村委員長	<p>他にご意見等ありましたらお願いできたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
森内委員	<p>今回アンケートをしていただきまして、その結果はアンケートを回答された方には、何らかの形で周知されるのでしょうか。</p>
事務局 (小豆島)	<p>今回いただきましたアンケートの内容を整理しましたものを、計画の本編等にまとめて掲載することになっておりますので、そちらをホームページ等で周知していくこととなります。</p>
事務局 (和田)	<p>アンケートを回答いただいた方に、フィードバック等を個別に郵送で送ったりということは今のところは考えてはいないですが、ホームページの方で、結果がまとまりましたら、お知らせしていく形で考えております。</p>
松村副委員長	<p>情報収集というところですが、このアンケート結果を見ると、広報誌や新聞などが圧倒的に多いですが、時代の流れからすると、インターネットやスマホからも、そのようなことができたり、増えていくという感じがします。今も話があったように「アンケートを回答された方に結果をフィードバックしますよ」と言った時に、「町のホームページに載せます」ということで、それは広報誌ではないですね。ホームページだからインターネットになります。皆さんがインターネットを使っておられるか、スマホをお持ちで見られているかというのは、よくわからないんですが、今回アンケート対象の方について、「スマホを持っていますか」「パソコンをしていますか」などの問いかけはなかったのでしょうか。あれ</p>

	<p>ば、そこから広報誌のような少し小さな字でも、大きな字で見ることでもできるかと思うのですが。</p>
事務局 (和田)	<p>今回の調査では、そこまでは聞いていないです。情報収集に関して、今回の調査で言いますと「どこから知ることが多いですか」という聞き方をしております。インターネットということに関しては、前回調査に比べると増えており、他のところからの情報というのも当然多い中なので、それが増えているのでホームページだけでよしとするわけではないですが、この結果に関しましては、今のところはホームページを想定しているというところではあります。</p> <p>ただ今後、ホームページだけがいいということではなく、広報や紙媒体からの情報周知というのは非常に重要であり、いかにわかりやすいような表示になっているかということも重要なので、皆さんにお伝えをしていくには、その部分も重点的に見ながら進めていきたいと思っています。</p>
松村副委員長	<p>災害時における支援対策の確立ということで、前回は計画の中に同じような文言が「今後どうしていきますよ」や町内で連携するとか、消防、関係機関と連携をするということを書かれておりますが、具体的にどこが主体になってやっていくのかということが、連携が取れていないのではないかという印象を受けます。先ほど別の会議があり、「要支援者名簿を更新しますので協力お願いします」というような話があったのですが、その要支援者名簿をどのように活用して避難誘導につなげていくのか、その辺をきちんとどこの部署が中心になって、作っていくのかということがないと、次の計画の時もまた「連携して続けます」という形になってしまうのではないかという気がします。その辺を表現することができればと思います。</p> <p>それと先ほど、個別避難計画について、個別避難というのは変わってきているという話があったかと思います。その辺の書きぶりもいかがなものかなと思いました。</p>
野村委員長	<p>関連しまして、概要版の2ページの真ん中です。《緊急時の対応》のところ、「BCPの策定状況」で言いますと、「検討中」と「策定していない」を合わせると3割になっています。「検討中」の方は策定する方向で検討しているのかどうかというのがまず可能性があるんですが、「策定していない」という方が12.5%。これに対して、どうするのかというところです。</p> <p>素案の101ページが「災害時における支援体制の確立」なんですが、あと他に計画の中で、災害時に関する表記はありますか。</p>

事務局 (和田)	災害関係で言いますと、概要版は9ページの右上③になります。計画素案で言うと101ページになります。こちらに災害時における支援体制の確立等を記載させていただいている部分となります。
野村委員長	ということは101ページにしかないということでしょうか。 BCPを策定していないところに対して、どう働きかけていくのかということが、この101ページだと特に言及されていないですが、その点は、緊急時の対応として確認をアンケートよりされているので、具体的にどのようなという記載が必要でしょうか。
事務局 (和田)	今の時点で、BCPの策定をしてないというところに関して、どういう取組を具体的にしていくかについては、まだ検討が進んでいないところではあります。概要の9ページの右上で言うならば、「2. 災害時における福祉サービスの継続と関係機関の連携」で、継続的にサービスが提供できる体制を確立していく方策の中でのBCPの策定状況を踏まえた対応をどうしていくかという検討になると思います。具体的なBCPとまでは書いておりませんが、継続的に考えていくということをお願いいたします。
大崎委員	BCPの策定は、今後やらないといけないことなので、皆さん進めておられると思う。今、策定状況がそこまで低くても、義務付けられているので、別に問題ないと思います。
野村委員長	策定を検討しているところも策定していないところも、策定をするという見込みで、あえて次期計画には入れないということでも問題はないということですね。
事務局 (和田)	事業継続に必要な体制やプランとしては、あるということになると思いますので、そういった意味では、「BCPの策定について」のような項目として必要はないと思います。ただ一定、それが実際に策定しなければいけないのにできていないといった事業所がないような確認は必要だと思います。
野村委員長	大阪市内を見ても義務ですが、全く手をつけられないというところが実態としてもありますので、確認は必要だと思います。
事務局 (和田)	ありがとうございます。
野村委員長	他にいかがでしょうか。ご意見や質問等ありましたら、お願いできればと思います。
大崎委員	前回の計画と今回の計画で、自立支援協議会についての記述があまり変わって

	<p>いないですが、自立支援協議会が主エンジンになって進めていかないといけないというのは、前の自立支援協議会の中で言ったつもりです。書きぶりがあまり変わっていないのであれば、自立支援協議会を町として動かして、主エンジンとしてやっていくようなことが書けるのであれば、もう少し加筆してほしいと思いました。</p>
事務局 (小豆島)	<p>内容については、大きく変更はしていません。今年度も先日開催をしたところですが、もう少し書きぶりを、現状に合わせて変えるよう、事務局の方で検討させていただきます。</p>
野村委員長	<p>他にはいかがでしょうか。何かご質問などありましたらお願いいたします。</p>
深田委員	<p>概要の2ページ目の真ん中の列の《新たなサービス事業所の開設等の予定》というのがありますが、事業所のアンケートから「こういうのを作りますよ」と出ているということでしょうか。</p> <p>グループホーム3事業所、生活介護1事業所、短期入所1事業所、これはプラスの数でしょうか。</p>
事務局 (小豆島)	<p>今後の開設予定というところで、事業所様の方からご予定をお聞きしているものになります。</p>
深田委員	<p>相談の拡充も2事業所となっておりますが、まだ増えるということでしょうか。</p>
事務局 (小豆島)	<p>あくまでも予定でございますが、既存の事業所様の拡充ということも含まれておりますし、新たな相談ということで予定されていることになります。</p>
野村委員長	<p>他にはよろしいですか。何かあればお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
森内委員	<p>概要版4ページの「⑫地域自立支援協議会」の表のところですが、手話奉仕員養成研修事業になっているので、訂正をお願いいたします。</p>
事務局 (和田)	<p>概要版4ページの「⑫地域自立支援協議会」表の一番左側が「手話奉仕員養成研修事業」となっておりますが、正しくは「自立支援協議会」ということで修正させていただきたいと思います。</p>
野村委員長	<p>自立支援協議会の機能を活性化というように書かれていますが、目標は現状通り、令和6年度、7年度、8年度で1となっておりますが、これは1のままがいいのでしょうか。活性化を図るというようになっているので、お尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局 (和田)	<p>概要版8ページの地域自立支援協議会、中段、⑩のところ。実は今まで地域自立支援協議会が、毎年1回開催と言いながら、令和4年度は、開催ができておら</p>

	<p>ず、令和3年度はコロナの影響もありまして書面の開催などありまして、確実にということで1という数字を入れさせていただいております。</p> <p>ただ、充実と言いながら1でいいのかというところもありますので、今のところ自立支援協議会に関しては、今年度は1回、開催させていただきました。できましたら研修会や部会なども開催していきたいという話も出ております。そういったところも踏まえて、もう少し前向きに考えていくべきだと思いますので、次期計画の素案の中では2に修正して、そこを目標に取り組んでいければと思います。</p>
野村委員長	ありがとうございます。
城阪委員	数字がパーセントで書いてあるところがありますが、100%は何人かというのがわからないので、実際の人数では書けないのでしょうか。
事務局 (和田)	アンケートの報告のところで、合計人数に対して何%というかたちで書いております。見てわかりやすいようにパーセントの表記としておりますのでご理解いただければと思います。
野村委員長	<p>そろそろ時間が迫ってきていますが、他にご意見などあればお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>次の議題に進んでもよろしいでしょうか。これはぜひ伝えたいということがありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいですか。</p> <p>それでは、議題(1)については以上としたいと思います。本日最後の議題となります。その他になりますが、委員の皆様から報告などありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>事務局から何かございますか。</p>
事務局 (森鼻)	<p>今後の予定についてお知らせをさせていただきます。</p> <p>今回お示しをさせていただきました計画の素案でございますが、委員様よりご意見をいただきました部分の修正を行い、内容を反映させていただきます。計画案については1月中旬～2月中旬にかけてパブリックコメントを実施してまいります。また、パブリックコメントと同時に大阪府との協議、調整を行いまして、計画の策定を進めてまいりたいと考えています。</p> <p>パブリックコメントと大阪府との調整においてご意見などがございましたら、修正を行い、2月下旬には第4回の委員会を開催し、計画をお示しさせていただきご承認をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
事務局	補足となりますが、法定協議が実際には、2月、3月で大阪府と行っていくこ

(小豆島)	<p>とになります。時間的にゆとりがないというところもあり、パブリックコメントと並行して、事前協議を進めていくということで大阪府と調整をしております。</p> <p>つきましては、本日いただきましたご意見について、次回委員会まで間に合わないというところもございますので、委員長、副委員長の方にご確認いただきしものをパブリックコメントと事前協議に挙げさせていただくということでよろしいでしょうか。</p> <p>委員長、副委員長よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。</p>
野村委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>次回第4回目は2月の下旬に開催ということで、ご予定いただけたらと思います。また日程は、事務局より調整をしていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上で、本日の案件が終了いたしました。委員の皆様、大変お疲れ様でした。最後に副委員長から閉会のあいさつをよろしくお願いいたします。</p>
松村副委員長	<p>皆様、年末のお忙しい中、慎重な審議ありがとうございました。主な点につきましては、先ほど事務局の方から説明があった通りの運びとなります。</p> <p>次回の委員会は2月の下旬ということですので、それぞれ経過を踏まえまして、案が決定となります。</p> <p>委員の皆様におかれましては、新たな計画の策定に向けまして、引き続きご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>本日の委員会を、これにて閉会とさせていただきます。どうもお疲れ様でございました。</p>